Vygotsky at Work and Play

Lois Holzman

Forward to the Japanese Edition (2014)

以下は、ホルツマンの日本語版への序文です。

私がこの本を書き上げたのは、茂呂雄二教授と会う前の2008年の年末だった。それ以来、ヴィゴツキーは、本書で紹介している米国のコミュニティーと場面はもとより、世界中のたくさんのコミュニティーで“遊びそして学び”続けられている。茂呂教授の努力で、本書で私が紹介しているヴィゴツキーに鼓舞された人間とコミュニティーの発達方法論は、日本の読者にも手に入れることのできるものになった。このことに、彼にこころからお礼を述べたい。また、時間を割いて、ニューヨークに足を運び、“道具と結果の弁証法”という私とフレドそして仲間達がヴィゴツキーの人生と著作に見つけた建築素材を使って、何が創造されたのか彼自身の目で見にきてくれたことにも感謝したい。

　ヴィゴツキーの創造的課題は、方法論の探求にあったと彼自身語っている。“人間に固有の心理活動を理解するという企てにおいて、方法論の探求はもっとも重要な問題となる。この場合、方法論は研究の前提であり成果でもあり、つまり道具であり結果なのだ” (Vygotsky, 1978, p. 65)。

　およそ１００年前、心理学が自然科学や物理学の、道具主義的結果のための道具方法論を見習う道を選んだ。哲学者のフレド・ニューマンと発達心理学者の私、二人ともコミュニティー組織の運動家でもあったが、人間の研究に不向きだとしてこの方法を拒否した（人間は天体や植物や身体器官とは質的に異なるからだ）。私たちはヴィゴツキーの道具と結果の弁証法に強く感化された。私たちの仲間が米国で行なっている実践に当てはまるだけでなく、人間の生と人間の生を理解することの、弁証法的な本性を明確に描き出す上で助けとなるのである。

　私達はヴィゴツキーの方法論宣言で自由を得たのだ。人間は道具を利用するだけではなく、新しい道具を作り出すと考えることにした。そればかりでなく、人間の発達も道具と結果の方法論に従うのだ。ヴィゴツキーは大人との言語ゲームと遊び、ごっこ遊びをすることで、乳幼児が言葉の話し手成ることを示した。この２つの活動はともに、道具（プロセス）と結果（プロダクト）が同時に出現する活動なのだ。

ヴィゴツキーは次のように述べている。「」(Vygotsky, 1978, p. 102)。彼の言うことは、遊びの中では、私たちは私たちで在るだけでなく、同時に、何者かに成ろうとしているということだ。大人や周囲の年長者と遊ぶことで、学習のパフォーマンスを創造しながら、乳幼児は学習する。数百人もの私たちの仲間がセラピーであり、教育であり、若者の組織作りであり、演劇作りであり、独立系の政治運動出会ったが、さまざまな組織作りの仕事をするのを見てきて、分かったことがある。それは発達するのは子どもだけではないということだ。“頭一つ抜け出た人”に成るなら、つまり別の誰かに成ろうとするなら、全ての年齢のあらゆる人が発達できるということだ。赤ちゃんはまだ正しく話す以前から、母親と一緒に会話をパフォーマンスする様に、学齢期の子どもたちも知己も無いのに読み書きや算数や科学をパフォーマンスできるし、大人もパフォーマンスの力で自分の世界をまわしていくのである。

　喃語を話す赤ちゃん、舞台の上にいる俳優、学校で劇をする生徒、データで歌を作る研究者、そして全ての人々が、そうしようと思い支援を受けられるなら、新しいパフォーマンスを創造し続けることができる。これが、私の考える発達のプロセスである。つまり社会文化的活動を通して、人々は共同して、世界の中での人々のあり方とつながり方、世界の理解と変化のしかたについて、新しい可能性や新しい選択肢を創造するのだ。言うまでもなく世界の中には私たち自身も含まれている。

　本書は、現在の自分よりも“頭一つ抜け出た人”として互いにつながることについて書いたもののである。数千の都市貧困層の若者、感情の苦痛を感じている人々、善き親・善き教師・善きカウンセラーに成ろうとする人々、コミュニティー作りを使用とする人々にとって、このつながり方がどのような意味を持ったのかを紹介したいと思った。私たちはみな子どものように遊び、どうやればよいか知らないことをやり、自分で在りかつ同時に自分ではない人物に成る、そういう能力を持っている。これこそが革命的な遊びなのである。そしてこれがパフォーマンスである。これが私たちの、ヴィゴツキーに命を吹き込まれた、生成の心理学のエッセンスである。

　ヴィゴツキーの洞察と私や他の人の研究から、人々が苦境から逃れるには、居間の自分のままではなく、自分を超えて成りつつある存在として人々と繋がれる、そういう革命的遊びが可能な環境を創造することが必要なことを学んだ。貧困、トラウマ、いじめ、身体的な限界、他のあらゆる下人で人々が立ち止まってしまったとき、このような遊びは成長をやめてしまった人々に学習と発達を再開させることができるのである。赤ちゃんと養育者がするやり方で遊ぶことで、学習への愛を取り戻し、他者とのつながり方を創造し、希望を生み出し、性を充実させ、新しい経験に取組み、自身のそして家族やコミュニティーの生を積極的に創造することを可能にする。

　世界中で、人々は遊び、プレイする。彼らが何者かに成るための、発達のための、転換のための、環境を創造している。その環境は、やり方を知らないこともやれ、共同で新しいことを創造する環境である。まさにそのような活動をしている日本の研究者と学生の皆さんに会うことができたのは光栄なことだった。彼らはみな、ヴィゴツキーに従って、持続的な人間とコミュニティーの発達のための、新しい心理学を創造するには、“方法論の探求”（既存の方法の適用でなく）が必要だと信じていた。日本語版の出版によって、多くの学生、研究者、教育者、ソーシャルワーカー、心理学者、コミュニティー活動家や他の人々が、ヴィゴツキーとともに、そしてアメリカの私たちがしてきた仕事とともに、学び遊び、そして何か新しいものを創造するようになることを期待している。

2014年６月19日

ロイス・ホルツマン

引用文献　Vygotsky, L.S. (1978). Mind in society. Cambridge MA: Harvard.